

成瀬ダム周辺森林生態系保護地域の森林調査

「[パタゴニア環境助成金プログラムと支援](#)」により調査を行います

成瀬ダム建設による森林生態系の状況を調査し、世界遺産である白神山地と比較することによって、この地域の自然遺産性を明らかにすることを目的とする。

1 湛水区域周辺は、溪畔林であるため、溪畔林としての重要性を考慮して調査する。

- ・ ブナ天然林の状況・・・方形区をとって樹種の確定、密度、樹幹を測定する
- ・ ブナ天然林内における 林床植生

・ オオビラシソ（アオモリトドマツ）の分布、風穴植生の存在

・ 樹洞分布と鳥類の生息状況（クマゲラの生存痕、クマタカ、オオタカ等）

・ 生物多様性を支える動物（ほ乳類、両生類、魚類）の役割（ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザルなど）・・・センサーカメラによる無人撮影

2 時期（固雪の頃下見し、夏期間を通じて上記調査を行う）

3 人員（[日本森林保護ネットワーク](#)の全面的な支援のもと）

上記調査には、市民が参加し、専門家とともに入林調査を行う。専門家は、現時点では金井塚（クマ・サルなど動物生態学）、手塚（植物生態学）、花輪（鳥類研究者）が確定しているが、秋田大の植物学者にも打診中。

